

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	検診重要課題	乳房トモシンセシスは高濃度乳房に対するマンモグラフィ検診の補助的モダリティとして勧められるか。
P		高濃度乳房の日本人女性(高濃度乳房の定義は世界標準ではACR(American Colleague of Radiology)BI-RADS5th分類のHeterogeneously denseとExtremely denseをDense breastと定義しており、我が国のマンモグラフィガイドラインでも”不均一高濃度”と“高濃度”を「高濃度乳房」とする提案がなされた。また、我が国の乳腺濃度分類のうち、高濃度は「高濃度乳房」と紛らわしいので「極めて高濃度」と呼ぶ提案もされており(NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構より平成29年4月16日)、本ガイドラインでも上記を遵守した。)
I		2Dマンモグラフィ+乳房トモシンセシス
C		2Dマンモグラフィ
	臨床的文脈	高濃度乳房ではマンモグラフィの感度と特異度の低下が問題視されている。すなわち、乳癌検出率低下により発見が遅れ、予後悪化につながる。また特異度低下による要精査率上昇は追加検査の増加による患者の不利益、医療費増加につながる。乳房トモシンセシスは2Dマンモグラフィの弱点である乳腺の重なりを減少させることから、高濃度乳房でのマンモグラフィの弱点を補完する検査法として期待されている。早期の浸潤癌検出は乳癌死減少と医療費抑制に重要であり、高濃度乳房を対象とする乳癌マンモグラフィ検診の精度向上のCQは優先検討課題である。
	01	死亡率減少
	非直接性のまとめ	N.A.
	バイアスリスクのまとめ	N.A.
	非一貫性その他のまとめ	N.A.
	コメント	トモシンセシス導入から経過が浅く、マンモグラフィ検診に補助的にトモシンセシスを加えた際の死亡率減少効果に関して、長期経過観察結果の報告は未だない。
	02	感度
	非直接性のまとめ	NA(感度が示されている研究は検診の二次精査を含めたトモシンセシスの診断での使用報告で本CQとは対象が異なる。検診では欧米の研究で浸潤癌検出率上昇が指摘されているが、follow up dataが不十分であるため、現時点では正確な感度は不明とされている。)
	バイアスリスクのまとめ	NA
	非一貫性その他のまとめ	NA
	コメント	マンモグラフィ検診におけるトモシンセシスの有用性については、欧米の研究で浸潤癌検出率上昇が指摘されているが、follow up dataが不十分であるため、現時点では正確な感度は不明とされている。
	03	被曝

非直接性のまとめ	N.A.
バイアスリスクのまとめ	N.A.
非一貫性その他のまとめ	N.A.
コメント	高濃度乳房におけるトモシンセシスの被曝について検討した報告は認められなかった。

04	要精査率減少
非直接性のまとめ	トモシンセシスを加えた検診の結果を乳腺濃度別に示した欧米からの症例対照研究を1件認めるが、特に問題ないと思われる。
バイアスリスクのまとめ	特に問題ないと思われる。
非一貫性その他のまとめ	特に問題ないと思われる。
コメント	2Dマンモグラフィにトモシンセシスを加える事による検診での要精査率減少は全乳腺濃度を含む欧米の研究で指摘されている。乳腺濃度別に示した症例対照研究でも同様に、高濃度乳房のうち、不均一高濃度、きわめて高濃度のいずれの乳腺濃度でも要精査率減少を認め、トモシンセシスの有用性を示している。